

平成29年度 第1回消費生活モニター意見交換会報告

日時 平成29年7月21日(金) 午後1時30分～午後4時00分
会場 川崎市産業振興会館12階 経済労働局会議室 出席者 10人
次第 1 開 会

2 あいさつ

3 ワークショップ及び講演

テーマ 「私たちのくらしはすべて世界につながっている

～商品の一生を知ろう～

講師 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
理事・環境委員長：大石 美奈子さん(ミニ講座講師)
環境副委員長：村上 千里さん(ファシリテーター)

4 閉 会

《 講義概要 》

- ファシリテーターから「ワークショップ」について簡単に説明(参加する人が、主体的に、遊び心を持って、学び合う場)。
- アイスブレイク(*注)として、参加者のグループ分けを行い、自己紹介及び簡単な意見の交換(実際に自分が使ってみて良かったというエコ商品などの紹介)を行いました。
(*注)アイスブレイクとは、参加者の緊張をほぐし、話しやすい雰囲気をつくり、参加者同士が知り合うきっかけ作りのために行う簡単な作業のこと。



ファシリテーター 村上さん



ミニ講座講師 大石さん



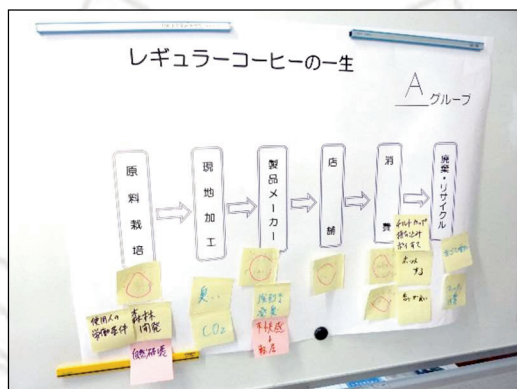
アイスブレイク

「私のおすすめエコ商品」ではLED照明・石けん・外箱のないティッシュの他、色々な商品が挙げられました。

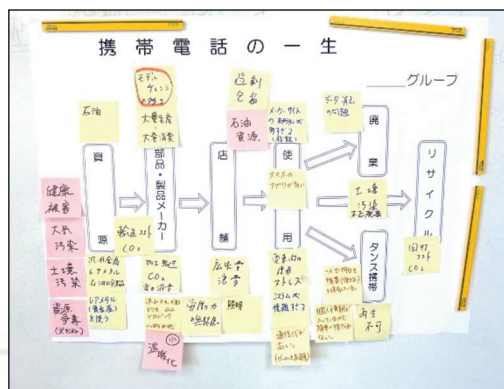
- その後、①レギュラーコーヒー②携帯電話の2品目について2つのグループに分かれ意見交換を行いました。
- 資源～商品の廃棄に至る商品の一生について、黄色の付箋にどうことが起こるのか、桃色の付箋にはどのような負荷がかかるのかをグループで意見を出し合っていました。（右写真参照）
- その後、各グループで作成した「商品のプロフィール」を貼り出し、各グループの代表者がグループ内の意見を発表し、他のグループとの質疑応答を行いました。



意見交換した内容をそれぞれ発表していただきました。



Aグループ
「レギュラーコーヒー」



Bグループ
「携帯電話」

- 発表後、ミニ講座として、配布資料「わたしたちの暮らしはすべて世界につながっている」により、講師から「持続可能な暮らし」、「商品の一生」などについて講演をしていただきました。また、コーヒーには自然や環境に配慮しているラベル（フェアトレード、有機 JAS マークなど）が貼られていること、消費者ができる事は、賢明な商品の選択・購入をすること、ものを長く使い大事にすることなどについてお話をいただきました。



〈コーヒーについている認証マークのいろいろ〉



〈フェアトレード〉

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」。



〈レインフォレスト
アライアンス〉

野生生物の保護、土壌と水源の保全、労働者とその家族および地域社会の保護、生計の向上などを目的とした、環境・社会・経済面の厳格な基準に則って管理された農園や森林で作られた商品、あるいはそれを材料にして作られた商品。



〈グッドインサイド〉

職業としての農園経営、優良農業実践、安全な作業環境、および自然の生息環境の保護などの基準を満たした農園で作られたコーヒー、カカオ、茶葉の認証基準。



〈バード
フレンドリー〉

熱帯の森林を利用したシェードグロウン(木陰栽培)かつ有機栽培で生産されたコーヒーをプレミアム価格で買い取ることで、生産農家を支えながら森林伐採も防止し、そこで休む渡り鳥を守るプログラム。



〈有機JAS〉

農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品として認定された農産物、加工食品、飼料及び畜産物。

《参考》

認証マークの付いた商品



<まとめ>

1. 自分のくらしが、環境に負荷をかけていることを知ろう
2. ものは変化はするが、消滅はしないことを見極めよう
3. ものの来し方、行く末を想像する力をもとう
4. わからなければ調べよう、聞いてみよう
5. そしてグリーンコンシューマーになろう

- 講座終了後、ふりかえりの時間として、各自「ふりかえりシート」に今日体験して思った事などを記入していただきました。
- 最後に質疑応答をして、閉会となりました。
- 質疑応答では、自然や環境に配慮した商品だけで全ての流通を賄う事は難しいのではないか、などの意見が出されました。

《 全体から 》

今回の意見交換会は、「ワークショップ」という手法で講座を行いました。ワークショップとは、講師の講演をただ聴くという形ではなく、参加された皆さんが実際に作業を行う中で、主体的に知識やアイデアを出し合い、新たな発見や学び、提案を生み出す環境について学んでいただくというものです。環境について考えるきっかけとなったり、色々な立場からの意見を聞くことができたと思います。

身近な商品である「レギュラーコーヒー」と「携帯電話」の商品の一生を考えていく中で、物やサービスは全部世界につながっており、コーヒーはお店に行けば簡単に手に入るが、それをたどっていくと私たちの行ったことがない地域で生産されている、携帯電話の原料となるレアメタルについても同様で、商品に関する情報がどのように消費者に提供されているのかを見つめ直す良い機会となったのではないのでしょうか。

コーヒーや携帯電話に限らず、さまざまな業種で環境への配慮に積極的に取り組んでいる企業があり、ホームページなどに「環境への取り組み」として詳しく公開している企業もあります。

今後、皆さんが買い物をする時などに、より環境に配慮した選択を心掛け、「消費者市民社会」の一員となっていただけることを期待しています。

